

ため池の防災・減災

- ・東日本大震災では農業用ため池が決壊し、人命を含む甚大な被害が発生するなど、大規模地震に対する対策が必要
- ・近年、頻発する局地的豪雨に対する対策が必要

大規模自然災害への備えが必要

大阪府ため池防災・減災アクションプランの策定(平成27年11月) (詳しくは大阪府HPをご覧ください)
ハード・ソフト対策などを総合的に行う“ため池の防災・減災対策”を
府民、ため池管理者、市町村との連携により推進。

ハード対策 : ため池耐震診断の推進
ソフト対策 : ため池ハザードマップ作成の推進

「防災・減災対策を重点的に推進するため池」

下流影響が大きいため池を「**水防ため池**」に選定
(四條畷市は11箇所)

四條畷市では

ハード対策 ため池耐震診断 : 大阪府主体事業として、ため池の耐震診断を実施

結果

耐震性あり: 10箇所
耐震性なし: 1箇所(北谷新池)

対策

応急として、安全水域まで水位調整中
平成30年度、対策工事実施予定

耐震性は確保される

ソフト対策 ため池ハザードマップ : 対象ため池が決壊した場合に想定される浸水区域や水深、および避難に役立つ情報を取りまとめたものを作成

詳しくはため池ハザードマップに記載ある「**ため池ハザードマップの活用方法**」をご覧ください